

令和7年度第1回 静岡市清掃対策審議会会議録

1 日時 令和7年10月30日(木) 午後2時～午後3時30分

2 場所 静岡市役所静岡庁舎本館 3階 第2委員会室

3 出席者 (委員)

平井一之委員、平井正樹委員、石井委員、板谷委員、
石田委員、大石眞也委員、関本委員、窪田委員、
増田委員、大石善博委員、狩野委員、澤山委員

(事務局)

大村環境局長、佐藤環境局次長

【ごみ減量推進課】

渡邊ごみ減量推進課長

【廃棄物対策課】

坂野廃棄物対策課長

【収集業務課】

萩原収集業務課長

【廃棄物処理課】

小林廃棄物処理課長

4 傍聴人 0人

5 会長副会長選出

会長 平井一之委員

副会長 平井正樹委員

副会長 石田幸彦委員

6 報告事項

(1) 静岡市のごみ減量施策の実施状況について

(2) 電池類の排出方法の見直しについて

7 会議録

(ごみ減量推進課 渡邊課長より議題(1)の概要説明)

- 平井会長 静岡市のごみ減量施策の実施状況について御報告いただきました。御意見・御質問ありましたら、お願いします。
- 窪田委員 資料3ページ、令和7年度のごみ減量施策、ア(ア)の製品プラスチックの回収について、市内50か所にボックスを設置しているとありますが、私は1か所しか知りません。市民周知をどれくらいしていますか。市内50か所すべてでないにしても、どれくらい住民は知っているのでしょうか。
- 渡邊課長 市民周知についてお答えいたします。製品プラスチックの回収については、将来の容器包装プラスチックを含めた、プラスチック全体の回収を見据えた事業と考えています。事業開始年度は広く周知し、その結果、各生涯学習交流館など拠点全体である程度の回収ができてきているため、一定程度の認識はしていると考えています。当該事業はあくまでも暫定的なものであり、さらに広く周知するとか、設置拠点を倍増させるとかまでは考えていません。
- 窪田委員 トレーなどについてはスーパーなどでも回収をされていて、スーパーによって回収対象が異なります。そういった民間の拠点や情報をもっと知りたいと思っています。プラスチックの回収もどこの生涯学習交流館で実施されているかなど具体的に知りたいと思います。さらに周知していただくようお願いします。
- 狩野委員 プラスチック分別について、ダイセキ環境ソリューションと連携協定を締結したとあります。これは、プラスチック分別実施に向けたものと思いますが、地元とのコンセンサスは上手くいっていますか。
- 渡邊課長 ダイセキ環境ソリューションの事業について、施設整備を進めるのと並行して関係自治会に説明をしています。長田西自治会連合会の説明会に1回、丸子赤目ヶ谷などの単位自治会6~7回ほど、市も立会い、説明会を実施しています。地元の方からは、ダイセキ環境ソリューションは誠実な会社だという評価をされており、信頼を得ていると考えています。
- 平井会長 私は他自治体の審議会にも出ていて、他でよく質問されることになりましたが、プラスチック資源循環促進法に基づいて、製品プラスチックの回収が始まっていますが、今年の2月から、再資源化事業高度化法の中で、プラスチックリサイクル

循環するだけでなく、経済の活性化を促すということも求められています。静岡市ではプラスチックリサイクルを実施した後、その再資源化されたプラスチックをどのように市内で活用、再資源化していくのか、そこが重要だと思いますが、その点はどのように考えていますか。

渡邊課長 ダイセキ環境ソリューションが導入予定している設備については、先進的で高度な設備であると評価しています。現在のリサイクルではせっかく分別しても助燃材としてしか使われない場合もありますが、ダイセキ環境ソリューションの設備においては、高度な選別により良質なペレットを生成でき、高度な再資源化ができると期待しています。

石井委員 ダイセキ環境ソリューションの整備について、いつ頃稼働するのか等、今後の見通しを教えてください。またいつ頃から分別収集を開始する予定ですか。

渡邊課長 スケジュールについてですが、各事業者からプレゼンテーションを受ける中で、ダイセキ環境ソリューションからは令和10年4月からの提案を受けました。しかし、予定したとおりの建築計画では難しいと言われており、令和11年4月と1年程度遅れる可能性がある、そういった報告を受けています。そのため、分別収集開始について、当初は令和10～12年度の間としていましたが、令和11年度開始となりそうな見込みです。

(収集業務課 萩原課長より議題(2)の概要説明)

平井会長 リチウムイオン電池については最近非常に話題になっており、今年の4月15日には環境省より市町村宛てに通達が出ています。こういった国に求められていることを、静岡市としても取り組んでいただけるということだと思います。御意見、御質問がありましたらお願いします。

大石(善)委員 一番心配していたことを解決してもらいました。ごみの出し方について、市民に理解してもらうことが必要だと思います。特に若い人に向けて、拠点の場所、内容の周知徹底に配慮して進めていただきたい。

萩原課長 ありがとうございます。おっしゃるとおり、広く周知することが、事故の防止に繋がるため、よりよい周知方法を検討していきたいと考えます。

窪田委員 最近、荷物の中での発火とか、ごみ収集車が爆発したとか、事故のニュースを

よく見ます。購入する段階で、電池を処分する方法は周知されているのでしょうか。国の方で法的に定めてほしいと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

萩原課長

御質問ありがとうございます。リチウムイオン電池の製造者責任については、製造者による回収やリサイクルを進めていく方針で、これは国も進めています。電池など、一般廃棄物については市町村が処理責任を有するため、自治体ごとのやり方で進めていくこととなります。静岡市としては、御説明したとおり、リチウムイオン電池を回収していきたいと考えています。

窪田委員

以前は毎年各家庭にごみの出し方ガイドブックが配られていましたが、最近では予算の都合もあるかもしれませんが、冊子が配られません。また、細かく書いてあっても読まないことが多いです。町内の方で協力してもらって、ごみの減量や分別、もっとわかりやすくてきたらと日頃から思っているのですが、年配者が多く住んでいるところについては、配慮するなど上手に周知できる方法を検討してもらえればと思います。

萩原課長

ありがとうございます。ガイドブックのお話が出ましたが、現在は保存版としてお配りして、変更があったときに配っています。今後、プラスチックの分別収集など、大きな制度変更があるタイミングで、また配付できたらと思っています。今回のリチウムイオン電池の回収方法の変更については、組回覧や廃棄物減量推進員さんの勉強会などの機会を通して周知していきます。

窪田委員

アパートの方など、自治会・町内会に入っていない人が多いため、こうした自治会・町内会の回覧で漏れてしまう人にも伝わる、広報の方法を検討してもらいたいと思います。

石井委員

関連して、今後のスケジュールの中で、広報紙3月号とありますが、3月号の広報紙が配られるのは、3月の上旬から中旬になります。この頃は異動などが多く周知度が低くなってしまうのではと思います。電子データでの周知もされていますが、若い人は町内会に入っていないので情報が行き届かないのではないのでしょうか。もっと早く、2月号に掲載することや、2月連続で掲載してもらうなど、工夫して周知度を高めてもらえませんか。

萩原課長

3月号については毎年ごみの分別をお知らせする枠があるため、この枠を活用して周知しようと考えています。また今回の回収方法見直しは、従来の方針に加えて、という話であり、従来までの方法では集めないというものではないので、

だんだんと広く周知できればと思います。

大石(眞)委員 国勢調査員をやっているが、一番困ったのが大学生です。大学生は住民票を移していないため、分別ガイドブックを受け取っておらず、自治会・町内会にも入っていませんが、その年代が今回対象の電池を使う機会が多いのではないのでしょうか。一番ルールを守ってほしい層への周知がもれてしまうため、大学を通して周知するなど、広報の仕方について改めて、もっと工夫してほしいと思います。

萩原課長 大学生や外国の方に対して周知できないのが、課題であると認識しています。大学生に関しては、大学に出向き出前講座を実施するなど、強化したいと考えています。また、例えば、不動産業者をとおしてアパート住民に周知するなど、周知方法を工夫していきたいと思います。

石井委員 小型家電回収ボックスについて、電池を入れてもいいと変わるが充電電池は火災の恐れがあるため投入できないという整理とききました。携帯電話、PCは入れても良いということになっていますが、こちらも発火の恐れは捨てきれないと思います。充電電池が入っている家電の扱いについて、変わりますか。

萩原課長 これまでの扱いから変更する予定はありません。これまでの扱いに加えて、一次電池については、袋に入れて同じボックスに入れてもらう運用になります。携帯電話なども発火リスクがあるというのはおっしゃるとおりですが、むきだしの電池と比べて、ある程度クッションがあるため安心とも聞いています。これまでボックスで発火したという事例はありません。

平井会長 少し補足しますが、事故が多いため環境省から各自治体へ通達がだされて取組を強化することとなりました。製造者責任の観点から、製造者が集めて処理をする、そのために事業目的会社を作る、JBRC、ボタン電池回収センターといった団体をつくり、市が集めた対象品目を団体に引き渡し、資源循環を達成する、こういった取組です。家電リサイクルの流れに似ています。とにかく市民にあっては、市に協力し、しっかりと分別してもらうこと、市は団体と協力し、しっかりと資源循環を目指していくことが必要です。
議題は以上になりますが、ほか、廃棄物に関わる内容についてなにかありましたら御発言をお願いします。

石田委員 テレビで見ましたが、今、インパウンドの影響により、日本の観光地でトランクの

ごみが増えているということでした。例えば小さいトランクから大きいトランクに変える、そして不要なトランクを捨てていってしまう、そういった問題が起きている市もあると聞きました。静岡市も、今後こういったインバウンドによる困りごとが起きてくると思います。周りの事例をみてぜひ取り組んでいただければと思います。例えば、静岡市でトランクのごみが増えているといった話がありますか。

坂野課長

今、石田委員から話がありましたスーツケース等のインバウンドによるごみの話ですが、当課が所管する不法投棄調査の中では、まだスーツケースなどの投棄事案は確認できていませんが、今後、さらにインバウンドが増えてくれば確かにそのような問題発生も想定できるため、検討していきたいと思います。

狩野委員

お願いになりますが、不燃粗大ごみの受付センターについて、電話をすると繋がらないことが多いです。今後、プラスチックごみ分別に取り組んでいく中、受付センターの混雑対策について検討していることはありますか。

萩原課長

不燃粗大ごみのフリーダイヤルが繋がりにくいことについて、市民の皆さまからの同様の問い合わせは確かにあります。当課としても、オペレーターを増やしたいと考えてはいますが、どうしても殺到する時間帯というのがあります。受付時間が朝の9時から夜の7時まで対応しているので、混雑する時間帯を避けてと案内していきたいと思います。プラスチックの分別など、大きなルール変更により、問い合わせが増えることが想定できますので、何らかの対応をしていきます。

平井副会長

大学生、外国人への周知、インバウンドによる問題など様々な話がありました。今回の意見を踏まえ、市の方で進めてくれると思います。電池の排出に限らず、外国の方も増えており、市民局や各局で連携していただくことが必要です。周知に関しても多言語化を含め、他機関との連携について取り組んでいただきたい。そして町内会に負担にならない形での周知を徹底してほしいと思います。今現在、連携しているものがあれば、教えてもらえますか。

萩原課長

連携について、日本語学校において今年から講義のコマをいただき、2000人規模の大学生に対して1時間程度の講義を実施することになりました。分別方法の案内については、アプリやSNSなど、活用して実施しているところですが、外国人の方には外国版の分別ガイドブック配付など、広く周知していきたいです。

平井会長

今日は報告事項という位置付けて、皆様には御意見をいただきました。私の方

でお預かりしている進行のテーマはこれで全て終了しましたので、進行を事務局へお返します。

(閉会)

7 会議録署名

会長 平井 一之

